

## 今年の コウライ・野芝の 秋の施肥

今年の夏は、干ばつの影響でティ、FW、ラフの生育が悪くなっています。今回は秋肥について考えてみます。

### 1. 施肥は 芝の回復 見た後に

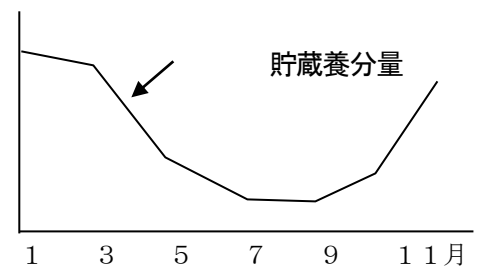
早く芝を回復させたいために、雨が降る前に、すぐ施肥をしているコースがあります。しかし、この方法は肥効が悪くなります。雨が降って新芽が発生し、生長を良くしてから施肥をした方が回復は早くなります。

### 2. 乾燥後の回復は 9月に施肥

9月はグリーン管理に頭がいっぱいで、ティ、グリーン周り、FWには頭が回らないかもしれません。しかし、10月中旬までに芝を回復させないとコウライシバは時間がありません。9月下旬になると秋雨の時期なので施肥のチャンスです。

### 3. 9月施肥 貯蔵養分が 貯まるのか？

秋肥は早く施肥すると葉が伸びるので、養分が貯まらないと考える人がいます。しかし9月以降の施肥で葉が伸びても葉色が濃くなれば、貯蔵養分は増加します。貯蔵養分は、芝の生育が緩やかになると蓄積するのではなく9月以降は、貯蔵養分を蓄積する状態に芝が変化しています。



### 4. 肥料は 直接貯蔵養分を 増やさない

芝は葉に「糖」が蓄積され、デンプンに変化して貯蔵養分になります。施肥によって葉色が濃くなり葉緑素が増えることで、光合成が活発になり、糖が多くなるために貯蔵養分が増加します。したがって、葉色が濃くなる肥料の方が適しています。

### 5. 秋肥に 適した この肥料

秋は気温が低下し、芝の吸収力も低下するので、緩効性チッソが多すぎる肥料は適しません。また、イオウを含んでいる方が、葉色がよくなります。TG アンカー044FR有機やターフメイトがお勧めです。

### 6. ティの すり切れ防止に ネガアップ

施肥をする前にネガアップを散布すると、NPK肥料の効きが不思議に良くなります。ケイ酸も入っているネガアップは冬の擦り切れにも強くなります。施肥量は30～50g/m<sup>2</sup>です。

### 芝草漫遊記

8月は広島に出張しました。久しぶりに、とてもよく管理されたコースを見ました。近年は人・物・金の問題で、十分な管理ができていないコースも多いのですが、このコースは見事でした。

広島県のコースは町から近いコースでも標高が300～400mのコースが多く、広島県は瀬戸内海から急に山になっている地形です。夏の最低気温も25℃まで下がるコースもあり、瀬戸内の各県の中ではベントに適しています。

近年はどの地方でもボールスピードの話が出ます。川柳風にいうと「肥料切り 砂も入れずに 低く刈る」「低刈りは ボールは走るが 後心配」・・・このように安易に低刈りをして、生育不良になっているコースもあります。特に今年は、刈り高を上げて夏対策をしているところが多いように思います。10月の競技会に向けて、刈り高を下げると思いますが、この時が一番芝が悪くなるので注意が必要です。